

綾小路きみまろ

最初に出喰したのは去年の秋。本州のどこかの“道の駅”だったか、高速の休憩所だったか。停車しているバスの中から、けたたましい声でしゃべる男の声がし、つられてあたりかまわずゲラゲラ笑う女性たちの声が聞こえてきた。

どこか素人っぽい調子のだみ声だったから、話の面白いガイドが客を笑わせているのかなと思ったが、それにしては客の笑いの数が多い。

すっかり話に聞きほれ、心を奪われている様子だった。ほんの数分、小耳にはさんだけのその様子が、実はずっと気持ちに引っかかっていた。後になって、これは“綾小路きみまろ”のテープを観光バスが流していたのだと今年になってから知った。

たった一度だけ、テレビのインタビューで彼を見た。風貌はまあただのオツさんである。売れない頃の彼は、自演のテープを自宅でダビングし、道の駅などで観光バスのガイドさんに、“どうか車の中でかけてみて”と無料で配り、頼んであるいたという。それが少しずつ評判になり、自宅に注文が来るようになると、奥さんと二人で注文の数だけ徹夜でテープを作る作業を続けたそうだ。

下積み芸人の苦労話のようだが、その話っぷりがまた生き生きと楽しそうなのだ。やがて音楽出版社の目にとまりCDが売り出された。そして何とオリコンチャートの四位までなったというから驚きだ。

電波に乗って有名になったのではなく、高速道路をバスに乗って全国に拡がったというのがまた面白い。これはどうしてもちゃんと聞いてみなくては、とテープを買いに行くことにした。

さて、漫談のテープってどこに売っているのだろう。オリコンチャート云々とあるから、レコード店(言い方が古いかな)だとは思うけれど、果して、今どきの若者が買う音楽と一緒にあるものなのだろうか。魚を買うのに靴屋へ行くようなことでレコード店員に嘲笑われるんじゃないだろうか。恐る恐る入ってみた。あった。ちゃんとポスターも。近くに氷川きよしもいた。

さてその中味、これはぜひ買って聞いて頂きたい、内容は話術と合わせなければならないから。でもマイカーの中では、笑いころげてハンドルがおろそかにならぬよう、ご注意を！